

第9回 環境基本計画検討委員会 会議結果（概要）

日時：平成24年7月29日（日）午後2時～4時
場所：コミュニティセンターなかさと 大ホール
出席：委員10人、一般参加44人（審議会委員4人、自治会関係者35人、その他5人）
事務局6人

1. 今回のねらい

前回まで議論を積み上げてきた見直し提言（案）について、市民の方々と意見交換を行い、より良いものにする。

2. 現行の計画概要と検討委員の紹介

現行の基本計画の内容が、参加者のほとんどに知られていなかったため、検討委員の紹介とあわせ、プロジェクト活動の概要説明を行った。

● 前期5年間の成果

- ・ 様々な分野で市民と行政が協働して事業を進められてきた。
- ・ 継続的な活動を通して、専門家や企業などとの連携も見られるようになってきた。

3. 中間見直しの概要説明

参加者から出された意見をもとに、計画前期の課題と、その解決方策について、検討委員会での議論経緯を説明した。

＜参加者からの意見＞

- ・ 近くにスーパーがなく、自家用車がないと買い物に不便である。
- ・ 部分的に「環境が良くなった」といっても、実感が湧かない。例えば川であれば、下流から上流まで、5年で50km良くするとかいう目標を持つべきではないか。

● 前期5年間の課題

- ・ 着実に進んできたプロジェクトがある一方で、連携が思わしくなかったり、未稼働だったりするプロジェクトがある。

● 課題解決の検討

- ・ 未稼働であったプロジェクトを分析すると、市民側のメンバー不足だけでなく、行政側の体制も不十分であったことが明らかになった。
- ・ そこで後期では、計画のプロジェクトを更にパワーアップさせるために、体制づくりを含め、多様な主体との連携を図っていくこととしている。
- ・ 例えば、企業からも社会貢献活動（CSR活動）として、地域の環境問題に貢献したいという需要がある。そこと連携を図ることで、野洲市民にとっても企業にとっても良い関係が生まれるだろう。

（次頁へ続く）

- ・ 地域の環境がどう良くなったのかを共有するために、目標や指標を数値で確認しようということを提案している。

4. 自治会との連携

地域の環境問題を解決するために、市民団体や行政が自治会とどのような連携が図れるかについて、自治会での環境活動とその課題から意見交換を行った。

<自治会が担っている環境保全の役割> (参加者から出された意見)

- ・ 河川や水路の草刈り、清掃活動 (県下一斉清掃を含む)
- ・ ごみの分別収集の徹底、ごみ集積所の管理、独自の資源回収
- ・ 不法投棄対策、パトロール
- ・ 排水など環境負荷影響に関しての立地企業との協議
- ・ うるおいのある地域の環境づくり (ホテル、コイ、桜、湧水など)
- ・ 植樹や枝打ちなどの里山保全

● 自治会内での課題とその解決工夫

	課 題	工 夫
草刈り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化により、人手が減ってきている。 ・ 河川の堤内など、機械が入らない部分は不可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の役員だけでなく、老人会や青年団 (祭事)、農業関係の委員などが役割分担している。 ・ 複数自治会で河川愛護会を立ち上げ、協力している。
ごみ分別	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧の指定袋や名前を書かずに排出されている。 ・ 分別がきちんとできていない。 ・ 他所から捨てに来られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分別できていないごみは、写真を回覧し、啓発を行っている。 ・ クリーン推進委員が集積所の管理を毎日行っている。

● 連携による将来展望

- ・ 地域の環境活動と子どもたちの関係をつくることで、地域の自然と触れ合いながら野洲の環境の良さを子どもたちに伝えていくこともできる。同時に、自治会での活動にも活気が出てくるのではないかな。
 - ・ 自治会同士が交流する場をつくることで、お互いが抱えている課題や工夫を知るだけでなく、行政のコーディネートにより企業や市民活動との協力関係を築けるのではないかな。
- ⇒ 中間見直しでは、自治会の環境活動を行政計画に位置付け、交流の場づくりを含めた連携を進めていくこととしている。

5. 今後のスケジュール

- 9月 環境審議会から市長への答申
- 11月 見直し (案) についての意見公募 (パブリックコメント)
- 3月 成案